

平成 28 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	福山市立 新涯小学校		
学校長氏名	矢田 和宏	栄養教諭氏名	井上 美穂
職員数	58 名	児童・生徒数	834 名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

- ・食に関する意識と関心を高め、感謝の気持ちを持って食事をする児童を増やす。
- ・食事のマナーについて、姿勢や箸の持ち方、バランスのよい食べ方など課題がみられるので、マナーの定着を図る。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

- ・児童に食に対する感謝の気持ちを持たせ、残菜率を前年度以下にする

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組 1】（テーマ） 体験活動を通して、児童の食に関する意識の向上を図る。

(1) 2年生生活科『さつまいの栽培』

- ・さつまいの植え付けから、水やり、草取り、収穫、調理の一連の活動を行った。
- ・作物を育てる苦労や食べ物に対する感謝の気持ちを学習した。また、2年生の収穫したさつまいを給食で味わうことで、全校児童に2年生に対する感謝の気持ちを持たせることができた。



ぼくらが作った
さつまいはおい
しいな！



(2) 5年生総合的な学習『地域の特産物を知る』

- ・新涯の地域の特産物である「くわい」を通して、地域の学習を深めた。
- ・地域のくわい農家でくわいの苗の植え付け体験と収穫の見学。
- ・学校菜園にくわいを植え、栽培活動、収穫、調理等一連の活動を行った。
- ・地域の特産について深く学び、地域に誇りを持たせることができた。

ふるさと未来交流会
で、地域のくわいのこ
とを、発表しました。



K-1 グランプリ
開催！
Kはくわいの K
です。

【取組 2】（テーマ） 児童に感謝の気持ちを育み、残菜率の減少を図る。

- ・給食放送で、当日の給食の献立や使われている食材について放送することで、児童の食べる意欲を高める。
- ・給食後の食器や食缶の返却方法を見直し、クラスへの指導がしやすいよう改善した。
- ・給食委員が給食後、食器や食缶を点検し、残菜のあるクラスが把握できるようになったので、クラスごとの指導を行うことができるようになった。
- ・取組みの結果、少しずつ残菜が減少している。



【取組3】(テーマ)委員会活動を通して、全校児童に対する食に関する意識の向上を図る。

- ・給食委員会で、「食器を大切にしよう」「食器をきれいに返却しよう」「残さず食べよう、マナーよく食べよう」の4つのテーマで全校児童に呼びかけた。
- ・その結果、少しずつではあるが、残菜や食器破損が減少している。



4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

(1) 夏休み子ども料理教室のメニューに取り入れ、調理実習した。

10名の参加があり、中には「家でも作った」と報告してくれた児童もいた。



(2) ひろしま給食100万食プロジェクトのチラシと一緒に、「お家で食育タイム」というプリントを配布した。

ひろしま給食にチャレンジしようと呼びかけ、家で作って食べたら、作った内容と感想を書いて提出してもらった。

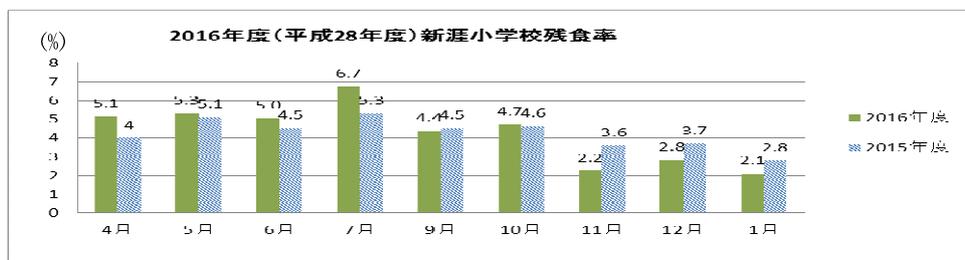
児童からは「簡単でおいしかった」「また作りたい」「お家の人がおいしいと喜んでくれた」等の感想が届けられた。



5 取組に対する成果と課題

【成果】

- ・残食率を月別に前年比較すると次のような結果であった。



- ・1学期の残食率は昨年度より多かったが、給食指導等の取組により、2学期から残菜が減少し、昨年度の残食率以下になっている。

【課題】

- ・食事のマナーの定着ができていない児童が多くいる。
- ・食に関する意識を高め、食事を大切に、食材や労働に対する感謝の気持ちをさらに高める必要がある。

6 今後の取組に向けた改善方策について

- ・マナーの定着を図るため、毎日の給食時間や授業を通して、繰り返し指導していく。
- ・体験的な活動や家庭との連携を通して、食の大切さを伝え、食材や労働に対する感謝の心を育んでいきたい。